

回顧 2025

9月中旬に稚内市で行われたミラノ・コルティナ冬季五輪の最終予選に向けたカーリングの日本代表決定戦。女子ロコ・ソラーレ（北見）の藤沢五月選手のテイクアウトや、フォルティウス（札幌）の吉村紗也香選手のドロシヨットなど、日本最高峰のプレーに、テレビの前で多くの人が釘付けになっていたことだろう。そんな白熱の戦いを裏で支えていたのが、北見工業大冬季スポーツ科学研究推進センターの榊井文人教授らの研究チームだった。

試合内容を分析

決定戦が行われた稚内みどりスポーツパークのカーリングホールには、

カーリング日本代表決定戦



日本代表決定戦で試合データを収集する榊井文人教授（右）ら研究チーム＝9月14日

大舞台支えた北見工大

常にパソコン画面とにらみ合う榊井教授らチーム4人の姿があった。榊井教授らは、選手たちが投げたストーン（石）の精度を示すショット成功率を分析。また、試合を通じて後攻で2点以上奪ったエンド数や、先行で1失点のエンド数の割合など計算していた。ロコ・ソラーレや北見にゆかりのある選手が多く出場した代表決定戦は、NHKと「ユーチュ

ーブ」で4日間生中継された。NHKで放送された8試合は、各選手とチーム全体のショット成功率やエンドごとの得点の推移などを可視化。幅広い層がカーリングを楽しむ画面構成は、榊井教授らが提供したデータがなくてはならないものだったと、初めて知った。大勢の北見出身のトップ選手だけでなく、北見工業大の技術も競技の盛り上げに一役買っていると感じた。榊井教授は「カーリングのデータに興味があるファンは多いと思う。これからはトッ

プロだけでなく、幅広い層の試合を分析していきたい」と話す。

裾野拡大に貢献

試合データ収集は、競技の裾野の拡大にも寄与している。21歳未満対象の「赤いサイロCUP」では昨年の大会から、NHKで使われているものより詳細な試合のデータを公開。大会に出場した子どもたちは、張り出されたデータを夢中で眺めていたといい、やる気にもつながるだろう。

日本代表決定戦を勝ち抜いた女子フォルティウスは今月の世界最終予選（カナダ）で、見事に五輪の出場権をつかんだ。男子日本代表は最終予選で敗退して残念だったが、榊井教授は「やはり五輪は注目度が違う。北見も盛り上がるので、ぜひ活躍してほしい」と期待を込める。（安沢悠太）

(C) 北海道新聞社 無断転載、複製および頒布は禁止します。